

# 特集にあたって

手島 繁 一 (法政大学講師・協同総研常任理事)

本号は6月に行われた「『協同』のための北海道集会」の特集号です。また同時に、集会の「報告集」でもあります。このため、発行部数も通常の倍の2000部とし、倍加した部数の分については北海道集会実行委員会が「報告集」として販売・活用することにしました。

本号を特集号としたのは、次の二つの理由からです。

第1は、集会実行委員会から「報告集」の編集と発行の依頼を受けたことです。実行委員会では「報告集」を独自に発行することや『仕事の発見』誌の特集号という形で発行することも検討されましたが、研究所および労働者協同組合連合会との相談の結果、所報『協同の発見』特集号として発刊することに落ち着きました。こうすることによって、北海道集会の内容を研究所の会員の皆様に知ってもらうことができ、他方、集会実行委員会による販売・普及を通じて研究所の存在を会員以外の方に広く知ってもらうのではないかと思います。なお、各地域毎のこうした取り組みに限らず、さまざまな分野や領域毎に行われる協同を進める集会やイベントに際して、その主催者や関係者に所報の全部または一部の編集を委託し、あわせて販売・普及を行ってもらうという方式は今後も随時行っていきたいと考えています。ちなみに、本号は協同総合研究所と集会実行委員会事務局が共同で編集したものです。

第2は、研究所としても、研究所発足以降の初めての大規模な地域協同集会である北海道集会を成功させることを通して、地域協同集会のノウハウを蓄積し、あわせて各地の協同集会の発火点にしたいという思いから、92年度の重点的事業課題として北海道集会に取り組んできたからです。全国協同集会は既に4回を数え協同運動の力強い前進の中心軸になっていますが、さらに地域レベルでの協同運動を結集、交流し地域に協同運動の主体的力量を蓄積することが求められ、またそのことが可能な段階を迎えています。北海道集会に引き続いて長野、青森、富山で地域協同集会や懇談会の開催が決定し、現在その準備が進行中ですが、研究所は「協同運動のセンター・シンクタンク」として、さまざまな地域、分野、領域における協同運動の前進のために今後とも奮闘する決意です。

\*

「『協同』のための北海道集会」は、92年12月、協同総研理事の山田定市・北海道大学教授と北海道企業組合連合会の友友勝紘理事長が呼びかけ、93年1月19日に57団体・個人で実行委員会を結成し、本格的な準備に入りました。実行委員会は最終的には、14団体48個人の計62団体・個人となり、そのほかに、協賛団体6、オブザーバー団体1、数名の個人の協賛も得ました。

この間実行委員会は6回、事務局会議は10回、各分科会ごとに世話人会議がそれぞれ2回開かれました。この準備段階での民主的な討議を通じて、文字通り手作りの集会が実現したのです。また、1日で3つもの分科会を開催できた要因もそこにありました。多様な分野の研究者と実践家が一体となって集会を作り上げたことは、今後の協同の実践にとって重要な意義もっています。

事務局も研究者と実践家や団体が協力して運営するという点では初めての試みでもあり、難しさもありましたが大変奮闘したと評価できます。今後は、より広範な団体や個人で事務局を構成すると共に、企画、組織、財政などの役割分担もより集団的に行うことが課題です。

集会を広く知らせるという点では、実行委員会ニュースをそれぞれ5000枚づつ2度発行し、実行委員会への参加要請を最後まで粘り強く追求しながら5月中旬に1万枚の集会ピラを作成、100近くの団体に届

けました。4回にわたる事務局ニュースの発行と合わせると、これらの宣伝物は延べ709団体・個人に届けられたこととなります。6月1日には記者見行い、道内の有力紙『北海道新聞』に記事が掲載されました。

集会当日には54頁の「資料集」が配布されました。実行委員会や分科会世話人会議の努力もあって事前に報告資料がキッチリ集められたことも画期的なことでしたが、その甲斐あってか「大学の講義やゼミでの資料にしたい」といった声も出るほど好評を博しました。

当日の参加者は、73団体200人で当初の目標の300人には達しなかったとはいえ、初めての集まりという条件を考えるならば、「今後に大きな期待を抱かせる規模となった」（実行委員会総括文書）といえるでしょう。

集会の内容上の獲得目標としては、実行委員会としてさまざまな論議をへて、次の2点に設定しました。第1は、メインテーマである「地域づくり・仕事おこし」を共通の目標として、北海道内の豊富な協同の実践が一堂に会し、交流すること。第2は、新しい協同組合である労働者協同組合の全国的な到達と北海道における実践、および「協同」の運動全体にとっての意義を深めること。この目標がどれだけ達成されたかは、本「報告集」をご覧になっての皆さんの評価に待つよりありませんが、実行委員会は「質・量ともに第1回集会として成功した」（同上総括文書）ことを確認し、2年後をめどに第2回目の集会を成功させるべく、実行委員会を世話人会に改組し、すでに次の一步を踏み出しています。道程は必ずしも平坦ではないにしても、それを歩み続けるための灯火として本「特集・報告集」が積極的に活用されることを心から願う次第です。

## 集会参加状況

道企業組合連合会／釧路建設厚生企業組合／道北勤労者企業組合／帯広建設労働者企業組合／苫小牧建設厚生企業組合／別海厚生企業組合／札幌・道央地域建設企業組合／砂川建設企業組合／大樹企業組合／江別建設企業組合／静内建設企業組合／上磯建設厚生企業組合／鶴川建設厚生企業組合／幕別企業組合／鹿追企業組合／上湧別厚生企業組合／小樽地方建設企業組合／芦別中高年事業団／釧路高齢者事業団／苫小牧高齢者福祉事業団／標茶町高齢者事業団／秋田中高年事業団／仙台中高年雇用福祉事業団／船橋市地域事業団／石巻地区中高年雇用事業団／日本労働者協同組合連合会／センター事業団本部／センター事業団札幌事業所／センター事業団帯広出張所／センター事業団庄内事業所／センター事業団盛岡事業所／センター事業団仙台事業所  
企業組合・事業団32団体82名

コープさっぽろ／道央市民生協／大学生協北海道事業連合／北海道大学生協／労働者協同組合おといねっぶ／道漁連／道指導漁連／日園連  
協同組合関係8団体22名

生協総研／地域農業研究所／協同総研／北海道大学／北海道学園大学／札幌学院大学／東京農業大学／東海大学／専修大学／名寄短期大学／札幌大学／酪農学園大学／福島大学／帯広畜産大学／北海道教育大釧路  
学者・研究者15団体33名

北海道市民生協労組／北海道農協労連／北農連労協／北海道私教組／福祉保育労組／宗谷教職員組合／国労函館闘争団  
労働組合7団体15名

きょうされん北海道支部／道北勤医協／民族歌舞団こぶし座／オホーツクネットワーク／剣淵北の杜舎／和の会／北海道機関紙印刷所／ウェルフェアシステム／くみあい食品／旅・システム  
団体・企業9団体14名

所属不明／事務局  
総計72団体 177名